

こどもの形成と環境 (I)

日本女子大学 児 玉 省

山 本 弘 子

昨年の大会で「農村児童の性格と家庭」について報告を行なったが、今回はその資料をもとに同じく宮城県仙北、山形県庄内、関東は埼玉県箕田村、中部で長野県八ヶ岳中腹、西部で岡山県興除村と茶屋町、四国香川県高松市郊外、愛媛県大州市郊外、松山市郊外等九ヶ村について、親の態度としつけ方とこどもの生活構成との関連を考察すべく分析を試みた。対象とした児童は小学四、五年及び六年、中学一年、二年の四学年合わせて各地域二百名、並びにその親各地域百〜二百名について大部分はアンケート、少数を面接によって調査した。これらの地方は歴史的、伝統的、生産的、政治意識的、文化的に各々異った地方性を持つものである。

整理の方法 親の態度、しつけのしかたを五つの角度から整理した。第一の角度は親のしつけのきびしき、やかましきに関するもの、アンケート中親が「友達についてやかましく口出す」、「遊びや工作に夢中になっているのに無理にやめさせて勉強させる」、「体罰を与える」、「礼儀や規律にやかましい」、「これをしてはいけない、あれはいけないと言う」など積極的なきびしきを示すものを取りあげた。第二の角度は親切気から世話をやかずいられないような態度に関するもので親切的干渉としてまとめた。第三の角度はこどもに対する親の態度のやわらかい傾向を示すもので、「叱れないでほ

めてばかりいる」、「しつこくねだられると最後には親が負ける」、「手伝いはあまりさせないようにしている」、「こどもと友達のように話す」等の項目。第四の角度は両親の態度に開きがある場合の傾向で「厳しい方と甘い方との差が大きい」、「親の一方が全然世話をやかず、他方が世話をやきすぎる」、「両親がいい争う」などである。第五の角度は親がこどもをかくくあらしめたいと願っている理想像で、これを三つの類型即ち、(A)意志の強い勤勉努力型、(B)素直で親孝行型、(C)明朗で社交型に分類した。またこれに関連して、こどもが家庭の要求によって参加している生産活動、こども自身の興味および態度などを合わせて考察した。即ち、親がこどもに対して持っている理想像、しつけの方針、生産活動およびこども自身が持っている社会的政治的関心や態度も合わせて考察した。表の数値は各地域における各項目に対する反応平均であって、この反応平均をもってその地域の平均的態度を示すウエイトとしてみる事ができる。

結果の考察 (一)しつけについてみるとどの地域でもやわらかい傾向がもっとも多く、きびしいしつけ方の傾向は最少である。また(二)きびしいしつけ方の程度は各地域とも大差なく大体同じような傾向にあると言える。(三)やわらかい傾向ときびしいしつけ方との差をみると八ヶ岳と宮城県仙北、高松と仙北との間に統計的に有意の差が認められた。また(四)やわらかい傾向と親切的干渉との差について地域差をみると、八ヶ岳は他の八地域と、仙北は箕田村、高松の間に差の有意性が認められた。(五)八ヶ岳はこどもに対し比較的自由放任型であり、この傾向に幾分似通っているのが高松、箕田村の親である。反対に宮城県仙北の親は、こどもに対する親切的干渉並びにきびしき強いと言える。(六)親がこどもに対して持つ理想像では、各地域とも意志強固で且つ勤勉努力型のこどもを理想像としている親

しつけの類型・理想像と子どもの態度

| | | 地域 | | 仙北 | 庄内 | 八ヶ岳 | 箕田村 | 興除村 | 茶屋町 | 高松 | 大州 | 松山 |
|-----------|--------|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | | (宮城県) | (山形県) | (長野県) | (埼玉県) | (岡山県) | (岡山県) | (香川県) | (愛媛県) | (愛媛県) |
| 親に関するもの | 支配的傾向 | やわらかい傾向 | 53.5% | 53.5 | 62.8 | 54.7 | 50.3 | 52.6 | 60.0 | 55.7 | 53.5 | |
| | | きびしい傾向 | 42.8 | 37.1 | 38.8 | 37.6 | 34.1 | 35.8 | 37.6 | 39.7 | 38.0 | |
| | | 差 | 10.7 | 16.3 | 24.0 | 17.1 | 16.2 | 16.8 | 22.4 | 16.0 | 15.5 | |
| | 理想的傾向 | やわらかい傾向 | 53.5% | 53.4 | 62.8 | 54.7 | 50.3 | 52.6 | 60.0 | 55.7 | 53.5 | |
| | | 親切な干渉 | 55.7 | 49.3 | 44.7 | 46.1 | 46.1 | 49.3 | 52.8 | 50.0 | 49.8 | |
| | | 差 | -2.2 | 4.1 | 18.1 | 8.6 | 4.2 | 3.3 | 7.2 | 5.7 | 3.7 | |
| 理想像 | 両親間の態度 | 33.1% | 39.5 | 33.5 | 35.9 | 34.7 | 36.1 | 42.1 | 36.5 | 37.1 | | |
| | 勤直型 | 30.9 | 31.5 | 43.6 | 31.3 | 36.3 | 35.2 | 32.8 | 33.8 | 38.6 | | |
| | 勉親差 | 24.8 | 24.0 | 24.1 | 21.6 | 23.6 | 19.0 | 31.6 | 21.7 | 18.0 | | |
| 子どもの生活 | 勤直型 | 1.1 | 7.5 | 19.5 | 9.7 | 12.7 | 16.2 | 1.2 | 12.1 | 20.6 | | |
| | 勤明型 | 30.9% | 31.5 | 43.6 | 31.3 | 36.3 | 35.2 | 32.8 | 33.8 | 38.6 | | |
| | 差 | 19.7 | 23.7 | 29.2 | 26.0 | 17.0 | 26.8 | 26.8 | 28.6 | 25.8 | | |
| 子どもに関するもの | 生活 | 1時間50分 | 1.14 | 6.12 | .49 | 1.51 | .29 | 2.16 | .26 | 2.01 | | |
| | 勉 | 1.03 | .54 | 2.32 | .46 | 1.12 | 1.20 | .54 | .46 | 1.48 | | |
| | 興味ある欄 | 8.1% | 11.4 | 42.8 | 11.3 | 22.0 | 17.3 | 23.6 | 10.5 | 16.2 | | |
| 政治社会国際問題 | 政治 | 9.4 | 12.1 | 17.1 | 7.3 | 12.6 | 8.3 | 10.4 | 5.6 | 11.8 | | |
| | 家庭説 | 32.4 | 23.8 | 56.0 | 23.8 | 42.1 | 20.2 | 39.6 | 32.7 | 44.0 | | |

がもつとも多い。(c)この勤勉努力型と素直で親孝行型とのひらきを見ると、高松と箕田村、大州、興除村、茶屋町、八ヶ岳、松山に、仙北と庄内は松山、八ヶ岳、茶屋町に、箕田村と松山、八ヶ岳にそれぞれ有意の差が認められた。(d)また勤勉努力型と明朗社交型とのひらきを見ると、岡山県興除村は仙北、茶屋町、庄内、高松、箕田村、大州に、八ヶ岳は高松、箕田村、大州に、松山は大州、箕田村との間にそれぞれ有意の差が認められた。(e)八ヶ岳、興除村、松山の親のこどもに対して持つ理想像は、あくまでも勤勉努力型を望んでおり、逆に高松、箕田村、庄内、大州の親は必ずしも勤勉努力型ではなく、むしろ素直親孝行型であり、且つまた明朗社交型である。しつけの四類型—このこどもに対して持つ理想像はある意味ではしつけの基盤となる重要な部分とみることができると思うが、この理想像とこどもに対するしつけ方を合わせて総合的に考察すると四つの類型に分類できる。(一)こどもに対するしつけは比較的きびしく、親切的干渉的であるのに対し、その理想像は勤勉努力型のこどもを望むもので、これに属するのが松山の親である。(二)同じくしつけが厳格で、親切的干渉も高いのに対し、理想像は勤勉努力型であると同時に明朗社交型のこどもを期待しているもので仙北の親がこれに属する。以上二つのしつけ方に対し自由放任でこどもに対する干渉も少ない型がある。この場合の理想像に二通りあり、(三)あくまでも勤勉努力型の自立心に富むこどもを望む型と、(四)素直で親孝行で明朗社交型のこどもを望むものである。前者に属するのが八ヶ岳の親であり、後者に属するのが高松、箕田村の親である。

一方こどもの興味、態度をみるために新聞のどの欄を読むかの調査では、この内、政治、社会、国際問題などの社会的意識、政治的関心などをとくに取りあげてみたところ、八ヶ岳のこどもがもつとも

そういう関心が高く、ついで高松、興除村で、大州、仙北がこれらの興味が最低である。結局しつけ方がきびしく干渉的な家庭のことが必ずしも社会的意識が高いとは言えず、この資料ではむしろ自由放任型の家庭のことがはるかにその意識が高いと言えよう。生産的の圧力についてみると、時間で測定したところでは各地域間に著るしいひらきがある。そうかといってレジャーの多い方がそれだけ多く勉強しているわけではない。

(大会抄録110—113頁)

こどもの形成と環境 (II)

日本女子大学 児 玉 省

宮本美沙子

小佐野和子

これは、環境と児童の学習との関連および、態度との関連をみようとした研究である。文化的環境に差をもつと思われる六地域をとりあげ、各地域の小学校五年生を対象に、家庭環境調査、単語検査、知的理解力検査、道徳判断検査を行なった。

とりあげた学校 (1)東京都千代田区某小学校五年一五八名。都心の中心にある住宅街。有名校で区外からの越境通学者が約五〇%。家庭は中流サラリーマン以上で、親も教育熱心。

(2)足立区某小学校五年七七名。荒川土手近くの小工場地帯。ドブ川が流れており、文化施設に恵まれず、家庭は日雇いや内職ホロ集めなどが多い。子どもは野放しの状態。

(3)埼玉県川越市郊外の小学校五年百名。農業を家業とする児童に
ついてのみ調査。農村小学校としては比較的设备が近代的。以上の

他更に三小学校の児童の調査を行なったがここでは割愛する。

家庭環境の分析 家の文化性を六つの角度から検討した。(一)文字文化的なもの。家でとっている新聞、子ども新聞及び雑誌、子どももっている辞書を、各地域別持っている%をもって地方の文化度とす。(二)家具と楽器。タンスのような家にもあるものは除き、比較的、近代的文化的性質をもつものを取りあげた。(例、テレビ、電話、冷蔵庫、電気掃除機、洗濯機他十六点)同様に楽器についても、各家庭で持っている種類と数を取りあげその所有%をもって文化度とす。(三)玩具。その持っている種類と数による%をもって文化度を暗示するものとす。こどもの育成にとって玩具の持つ重要性に鑑みてとくに玩具を取りあげたものである。(四)家庭内の施設的なもの。子ども部屋と風呂のあることを文化性につらなるものとしてその各々の%を計算。(五)幼稚園。幼稚園に通園したことは必ずしも環境だけの問題ではないが、幼稚園教育とその環境に接したという意味で、これを文化性的の問題としてとりあげた。(六)親の教育程度は、重要な文化的環境を構成するので、それに段階点を与えて数値になおした。即ち、小学校卒を一とし、中学二、高専三、大学卒四の数値を与え、その総合点を算出した。各地域の総合点は、千代田七三三点、足立三一六点、川越三一七点になったので、それをそのまま十分の一とし、七三、三一、三一、を各地域の親の教育程度の文化度とみた。この六つの角度だけでは必ずしも充分とは考えられない。ことに経済的角度は重要なものではあるが、とりあげた六つの角度の中にいずれも関連すると考えられるので一応割愛した。以上六つの文化度を各地域別に合計してみた結果、換算された家庭環境の文化度としては、千代田区の六七に比し、足立も地方も共に三三という数が出ており、文化度の点においては、足立も地方も、都心